

## 頸動脈 stent 留置術後再狭窄例に対する stent 留置術

Stenting for restenosis after carotid artery stenting

赤路 和則<sup>1)</sup> 富尾 亮介<sup>1)</sup> 谷崎 義生<sup>1)</sup> 志藤 里香<sup>1)</sup> 神澤 孝夫<sup>2)</sup>

1) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳神経外科

2) 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院 脳卒中部門

[目的] 我々は、頸動脈 stent 留置術後、頸動脈超音波 PSV 300cm/ 秒程度以上の症例で、再手術をしている。今回、我々が施行した頸動脈再狭窄例に対する再手術の治療と予後について検討したので報告する。

[対象] 当院にて2003年1月から2018年5月までに頸動脈 stent 留置術を施行した 210 例（急性期例は除く）中、再手術をした 4 例 (1.9%) が対象である。すべて男性、症候性であり、年齢は 71-85 歳、狭窄率は 77-99%であった。全例で、Carotid Wallstent を使用し、術後内頸動脈最小径は 2.8-3.0mm であった。4 例中 3 例で、cilostazol を内服していなかった。初回治療から 5-14 ヶ月後に PSV が 290-386cm/ 秒となり、再手術をした。再狭窄に伴う症状はなかった。

[結果] 再手術はすべて stent 留置をした。2 例で Carotid Wallstent、1 例で Protege stent、1 例で Precise stent を留置した。cilostazol を内服していなかった 3 例では、再手術時に追加した。1 ヶ月-4 年の追跡期間で、再手術後、再々狭窄が出現した症例はなかった。再手術時の合併症はなかった。

[結論] 頸動脈再狭窄例に対する stent 留置術は安全である。2 例で Open cell stent 使用、3 例で cilostazol を追加し、再狭窄を予防できている。